

事業報告

活動名	日本技術士会東北本部岩手県支部2024年新春講演会 ～シリーズ岩手を知る（第28回）～ 「都市政策の潮流と、岩手・盛岡の魅力」 (CPD 番号 5-12)
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	令和6年1月27日（土）15:00～16:40
場所	プラザおでって 大会議室（〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1丁目1-10）
参加人数等	76名（会場65名、WEB配信視聴11名）
活動内容	
●講演内容 【講師】 国土交通省道路局企画課評価室 企画専門官 高濱 康亘 氏（元盛岡市都市整備部長） 講師は3年間、盛岡市都市整備部長として働き、その間、「開運橋からの岩手山」の景観に魅了されたとのこと。大学院時代には大槌の復興にも関わり、屋台の居酒屋などを手がけ、そのため、2週間に1度は大槌町に通っていたとのこと。社会人になってからも、リノベーションスクールに参加したり、友達と子供の居場所（学童ハウス）を作ったりした。空間・場づくりが好きとのこと。 本講演会では、都市政策の潮流について、自分の経験も含めて話してくれた。 【講演要旨】 講演では、都市政策、特にコンパクトシティの概念等について講演があった。都市における人口減少、市街地のスポンジ化、中心市街地の活性化などの課題が取り上げられました。 コンパクトシティの理念として、既存ストックを生かし、人の流れをつくることが重要だと述べられました。その中で、民間サービスの供給、税収の確保、中心部の魅力向上など、コンパクトシティがもたらすメリットについても説明がありました。 盛岡の事例として、木伏緑地やバスセンター等の整備、中心市街地の土地利用データなどが紹介され、盛岡の中心部こそが魅力であり、その魅力を最大限に引き出すべきだと主張しています。 ■講演の構成 1 人口減少と市街地拡大の現状 人口減少と市街地拡散が進行しており、人口密度が下がり都市機能低下の恐れ 2 コンパクトシティの必要性 生活サービス施設の集約・連携が必要、交通網を充実し歩いて暮らせるまちづくりが重要 3 コンパクトシティの課題 中心市街地のスポンジ化への対応が必要、民間主導のまちづくりを後押しする制度設計や行政意識の変化が重要 4 盛岡の事例 木伏緑地やバスセンターなどの整備事例と中心市街地の土地利用データからの考察 (文責 佐藤充弘)	
 	
古山支部長の挨拶 講師の高濱氏	